

平成27年1月30日

## 「北大農 NewPJ シリーズ学習会 4回参加」報告書

北海道大学 御中

一般社団法人 札幌消費者協会  
会長 桑原 昭子

標記学習会に参加致しましたのでご報告致します。

実施年月日	平成 26年11月17日、12月10日、12月13日、平成27年1月23日、
会場	北海道大学農学部 5階 中講堂、4階大講堂 (12/13)
講師名	北海道大学大学院 植物育種学研究室 貴島 祐治 教授 北海道大学大学院 植物遺伝資源学研究室 阿部 純 教授 独立行政法人農業環境技術研究所主任研究員 芝池 博幸 氏 茨城大学 立川 雅司 教授
テーマ	第1回 「遺伝学・育種の四方山話」 第2回 「育種の長い歴史・お豆の話」 第3回 ミニフォーラム「GM作物に対する多様な考え方を知る ～隔離距離から考える北海道の農業」 第4回 「遺伝子組み換え作物と新しい育種技術」
所感	<p>〈ご提案として〉</p> <p>4回の学習会を受講して感じたのは、</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 北大農NewPJシリーズ学習会の受講者募集案内に記載された、開催目的、連続4講座の趣旨、リスコミの考え方等は、多くの受講者は理解していませんでした。</li><li>② 回数を経る毎に講座は専門用語が多くなり、受講者にとって難しくなりました。</li><li>③ GMに関する受講者の周知度合いの差は、疑問や質問など発言しづらい状況を作ったと思われます。</li></ol> <p>ご提案として、</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 主催者から当学習会受講者募集案内に記載された内容を具体的に説明する初回を設けことで、連続で4講座を受講する意味や必要性が理解され、意識が高まると思います。 4講座を終え、受講者が何がわかり次に何を知りたいかをアンケートだけではなく皆で意見交換ができると相乗効果で、主催者はより活きた意見が聞け、受講者は次のステップアップにつなげることができるのではないかと思います。</li><li>② 講座は1時間弱でしたが、小刻みに理解度を確認しながら進行すると理解しやすくなり、講師と受講者の相互理解もより深まると感じました。脱線してもいいのではと思います。</li><li>③ 方法の一つとして、私たちのような人前で意見を述べる質問することに慣れている人が、呼び水となり発言しやすい状況を作ることでも必要ではないかと感じました。必要に応じて、講座開始の20～30分前に、このような役割の打ち合わせがあっても良いのではと感じました。</li></ol>
報告者	(一社)札幌消費者協会 組織課 小山 里美